



そろばんは頭をよくする魔法の道具。

Let's soroban

春休みが明けたら、いよいよ新年度です。この時期は卒業や入学といったイベントがあり、春の訪れとともに気持ちも一新してさあ～頑張るぞ～という感じで気分が盛り上がりますね…。

ところで、日本では4月～3月の12か月間が学校の1年間となっていますが、アメリカ・イギリスは9月～8月、オーストラリアは1月～12月、お隣の韓国は3月～2月が学校年度となります。世界主要国は圧倒的に9月から始まる国が多いです。実は日本でも明治時代に9月スタートとした時期もありましたが、その後、諸事情により現在の4月に変わったようです。

願ひましては～

春の競技会 読上げ算特集



この春には初めての読み上げ算大会を開催します。

そろばん・あんざん・英語を使った読上げ算。全神経を集中して挑んでみましょう。

第一部は 09:00～10:15 第二部は 10:20～12:00

第一部は低中学年や入塾して日が浅い生徒が中心（但しそろばん6級以上の生徒対象）、

第二部は一定の実力のある生徒が中心となります。

- ★ 参加費用 … 無 料
- ★ 開催日 … 4 月 23 日 (日)
- ★ 場 所 … 高 見 教室 (駐車場はありません)



近日中に教室での読み上げ算練習を開始します。

参加資格のある生徒は出来るかぎり参加しましょう！

*数字を使ったゲームも開催するよ！

夏休みパチパチ競技会や東三競技会でおなじみの読上げ算。今回は読上げ算オンリーの大会を開出題問題は、ソロバンを使う読上げ算、ソロバンはNGの読上げ暗算、英語版読上げ算の3種類。問題はこれから作成しますが、それぞれ20問ずつ計60問（60点満点）で競い合う予定。



読上げ算の最大の特徴はとにかく一瞬も気が抜けない点です。紙の上にある問題なら、「あ～お腹減ったなあ～」と余計なことを考えても、すぐにアタマを切り替えて問題に戻ってることが可能ですが、読上げ算の場合はふと何か違うことを思い浮かべたら、その時点でもう脱落してしまいます！アタマの中をまっさらにし、全神経を耳と指先に集中して臨むことが大切です。



読み手（先生）が読み上げる数字を正しく耳で聞き取り、それを0.5秒遅れでソロバン上の珠に変換して置いていきながら、その瞬間に同時に読上げられている次の数字を聞き取る、という作業を連続して繰り返していくのが読上げ算です。無我夢中で必死についていって正答にたどり着くと、やったあ～と踊りたくなくなる程に達成感や満足感があるはずですよ😊 また読上げ算がある程度出来るようになると、ペーパー上の見取り算が苦手な生徒も克服できるようになります。

そろばん業界では数年前から英語読み上げ算が注目され始めており、日本各地やオンラインで定期的に大会が開かれています。日本語でも難しいのに英語なんて絶対ムリ！と感じる人もいるでしょうが、必ず出来るようになります。最初は戸惑う生徒が多くいますが、少しずつ耳が慣れていきます。ポイントは日本語に直さずそのまま英語としてインプットすること。'two hundred eighty five (285)' と聞こえたら「えっと、hundredが二つだから200で、eightyは80だから…」とやっていたらまったく歯が立ちません。日本語と同様に英語をそのまま珠に置き換えていきましょう。グッドラック！